

さいたまトリエンナーレ2016開催効果について



1 開催期間

平成28年9月24日(土)～12月11日(日) [79日間]

*定休日=水曜 (ただし11/23(水・祝)は開場、翌11/24(木)は閉場)

2 実施事業

434事業 (うち参加者・来場者集計対象事業:195事業)

種別	事業数	参加者数	来場者数
1. アートプロジェクト	48事業	7,011人	217,350人
2. 市民プロジェクト	48事業	5,746人	74,834人
3. 連携プロジェクト	45事業	5,649人	44,406人
4. その他関連事業	54事業	45,655人	26,683人
	※239事業	—	—
合計	434事業	64,061人	363,273人

※トリエンナーレの盛り上げに協力するパートナーシップロゴ事業等の冠事業数

3 開催による経済効果 総額:29億5,848万円(暫定値)

■経済波及効果算出基礎データ(暫定値)

	全国	さいたま市内	埼玉県内
(1)開催経費から生じる効果	12億3,380万円	7億4,100万円	7億4,670万円
(2)来場者消費から生じる効果	4億2,450万円	2億0,500万円	3億7,010万円
A 開催経費及び来場者消費を合わせた直接効果	9億6,700万円	6億2,440万円	7億2,450万円
B 開催経費及び来場者消費を合わせた一次効果	6億9,130万円	1億2,530万円	1億6,950万円
C 開催経費及び来場者消費を合わせた二次効果	—	1億9,630万円	2億2,280万円
(1)と(2)を合わせた経済波及効果	16億5,830万円	9億4,600万円	11億1,680万円

■パブリシティ効果算出基礎データ

	報道・掲載件数	算出可能件数	広告換算額
新聞雑誌等	651	※614	3億8,090万円
テレビ	67	67	3億9,808万円
ラジオ	1	1	131万円
Web	1,157	776	5億1,989万円
合計	1,876	1,458	13億0,018万円

※新聞:535件 雑誌等:79件

4 認知度調査

大宮駅・浦和駅・武蔵浦和駅・岩槻駅で通行人を無作為に抽出しアンケート調査を行ったもの。

	平成 28 年 9 月 11・14 日		平成 28 年 10 月 30 日、11 月 2 日		平成 28 年 12 月 14・17 日	
※サンプル数	368 人		369 人		368 人	
①具体的な内容まで知っている	44 人	12.0%	97 人	26.3%	65 人	17.7%
②言葉は聞いたことがある、もしくはロゴマークは見たことがあるが具体的な内容までは知らない	63 人	17.1%	75 人	20.3%	106 人	28.8%
③知らない	261 人	70.9%	197 人	53.4%	197 人	53.5%
①+②（認知度）	107 人	29.1%	172 人	46.6%	171 人	46.5%

5 文化芸術機関、有識者等に対する調査

■意見聴取先リスト

	氏名	所属等
1	熊倉 純子	東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科教授
2	白川 昌生	現代美術作家
3	吉本 光宏	ニッセイ基礎研究所 社会研究部 研究理事
4	飯田 志保子	インディペンデント・キュレーター／東京藝術大学 准教授
5	逢坂 恵理子	横浜美術館館長
6	森 司	アーツカウンシル東京事業推進室 事業調整課長
7	山野 真悟	NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター事務局長
8	坪池 栄子	雑誌「地域創造」編集プロデューサー
9	壘 由佳里	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団

主な意見

- ・「さいたま」を非常に意識して作品を制作されているアーティストの方が多かったことが、一つの大きな特徴であり、非常に良かったと思う。
- ・今回、関わったり、鑑賞した市民の方々に対し、次は「どういことがあるのだろう」という、期待感の火を絶やさないようにする、また小さいプロジェクトを継続的に実施していくことが大事。財政、人材、様々なサポートの方法があると思うので、トリエンナーレを契機として、生まれたコミュニティを大事にしていくと良いのではないかと。
- ・「東京の近郊」という、農村部でも大都市での開催でもない、非常に性格が曖昧になりがちなところに、敢えて挑戦したことはとても意味のあることだと感じる。
- ・どこを基本構想とするのかが分かりづらかった。これだけ全国で国際展が開催されているなか、なぜ今「さいたまか？」ということについて、基本構想をもう少し練る必要があると思う。
- ・さいたまの文化芸術の核になる場所をどこにするか、ということが一つの課題だと思う。
- ・メディア戦略をしっかり立て、行っていくことが必要。「さいたまトリエンナーレ」の名前を皆知っているという状況に持って行くためには、もっと大きいメディアを使う必要があると思う。
- ・市民プロジェクトの事をもっと大々的に出さないと、市民の方々も参加された方々も気持ちが萎えてしまい、ないがしろにされている感が出てしまうのではないかと感じた。

6 来場者へのアンケート（サンプル数：2,165）※会期中、各会場において実施

Q1. トリエンナーレ全体の評価について

回答	人数（割合）	
① 非常に満足	408人（18.9%）	満足・計 1,272人（58.8%）
② やや満足	864人（39.9%）	
③ どちらともいえない	752人（34.7%）	
④ やや不満	108人（5.0%）	不満・計 139人（6.4%）
⑤ 非常に不満	31人（1.4%）	
⑥ 不明	2人（0.1%）	

Q2. 「さいたまトリエンナーレ2016」によって、あなた自身はどのような影響を受けましたか （複数回答）

回答	人数（割合）
芸術や文化への関心が高まった。	725人（33.5%）
市内の芸術や文化にもっと触れてみたいと思った。	558人（25.8%）
国内の芸術や文化にもっと触れてみたいと思った。	392人（18.1%）
諸外国の芸術や文化にもっと触れてみたいと思った。	235人（10.9%）
自分自身も創作活動を始めようと思った。	121人（5.6%）
特になし	686人（31.7%）
その他	26人（1.2%）

※「特になし」の31.7%に対し、68.3%の人が前向きな影響を受けている。

主な自由意見（一部抜粋）

- ・もっとPRを行ってほしい。
- ・継続開催を希望。
- ・普段使われていない場所を使ったことが良かった。
- ・盛り上がり欠ける。
- ・開催場所までの案内が足りない。
- ・コンセプト・内容が分かりづらい。
- ・広範囲過ぎて回りきれない。
- ・子供と一緒に楽しめるような芸術体験を希望。
- ・体験型・参加型のプロジェクトがもっとあるとよい。